

令和7年度第1回三浦市総合教育会議 会議録

○日 時 令和8年2月13日（金） 午後2時00分～午後4時01分

○場 所 チェルSea みうら 多目的室1

○次 第

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 議 事
 - (1) 三浦市教育大綱について
 - (2) 三浦市学校教育ビジョンと三崎地区小学校再編について
- 4 その他
- 5 閉 会

○出席者（6名）

市 長	出 口 嘉 一
教 育 長	及 川 圭 介
教育長職務代理者	石 渡 博 幸
教 育 委 員	村 山 智 洋
教 育 委 員	川 名 大 介
教 育 委 員	廣 瀬 牧 実

○説明のために出席した職員

教 育 部 長	鈴 木 基 史	教 育 総 務 課 長	浦 西 伸 一
学 校 教 育 課 長	松 田 寿 雄		

○関係職員

政 策 部 長	齊 藤 正 史
---------	---------

○事務局出席者

教育総務課教育総務グループリーダー	阿 井 俊 弥	教 育 総 務 課 主 事	飛 田 涼 馬
-------------------	---------	---------------	---------

○傍 聴（21名）

○鈴木教育部長 定刻となりましたのでただいまから令和7年度第1回三浦市総合教育会議を開会いたします。

私は本日の司会を務めます教育委員会事務局教育部長の鈴木でございます。どうぞよろしくお願いたします。会議は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項により、原則公開となりますので御承知おきください。本日、報道機関から撮影及び録音の申出がございましたので、こちらについて市長の許可を求めます。

○出口市長 許可します。

○鈴木教育部長 ありがとうございます。それでは報道機関の皆様には、この後撮影及び録音をしていただいて結構でございます。

ここで傍聴人の皆様へ傍聴の際の禁止事項を読み上げさせていただきます。傍聴人は次の事項をしてはならない。みだりに席を離れること。私語、談話又は高笑すること。議事に批評を加え、又は拍手その他の方法により賛否を表明すること。飲食又は喫煙すること。鉢巻、腕章その他これらに類するものを着用する等示威的行為をすること。市長の許可なく写真等を撮影し、又は録音等すること。その他会議の妨害となるような行為をすること。以上であります。皆様、携帯電話、スマートフォンの電源を切るかマナーモードにさせていただくようお願いいたします。注意事項は以上となります。

それでは会議、協議に当たりまして初めに出口市長から御挨拶申し上げます。

○出口市長 教育委員の皆様、こんにちは。傍聴人の皆様、こんにちは。

今日は総合教育会議ということで、三浦市の教育をいかに良くしていくかということを実績に皆さんと協議させていただければと思っております。この総合教育会議を通じて、三浦市の教育をいかに高めていくか、そして三浦市を子どもが育ちやすい場所にしていくということで、ぜひ議論させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○鈴木教育部長 ありがとうございます。それでは議事の進行につきましては、三浦市総合教育会議の運営に関する要領第3条の規定により、会議の議長は市長が務めることとなっておりますので、市長に議長をお願いいたします。

○出口市長 それでは議長を務めさせていただきます。本日協議いただくのは、お手元の次第のとおり2件でございます。早速ではありますが、まず三浦市教育大綱について、事務局から説明をお願いします。

○浦西教育総務課長 それでは三浦市教育大綱について、御説明いたします。

教育大綱については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律において、地方公共団体の長がその地域の実情に応じて、当該地方公共団体の教育等の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものとされております。大綱を定めようとするときには、総合教育会議で協議するも

のとされております。現在の三浦市教育大綱の期間が令和7年度までとなっておりますので、新たに策定するため、総合教育会議で協議するものでございます。

それではお手元の資料の三浦市教育大綱（案）を御覧ください。

はじめに基本理念ですが三浦らしい教育の実現としております。未来社会を生き抜くために、地域と学校の協働、「みうら学」の推進などにより、三浦らしい教育の実現に取り組むとしております。

次に大綱の期間ですが第5次三浦市総合計画の期間と対応して、令和8年度から17年度までの10年間といたします。

次に大綱の位置付けですが教育基本法に基づき策定される教育振興基本計画を参考に、かつ、第5次三浦市総合計画に即する形で策定するものです。

裏面を御覧ください。次に基本目標と具体的な施策ですが第5次三浦市総合計画に基づき、2つの目標を設定しております。

1つ目は全てのこどもが、自分らしく未来に向かって、豊かな自然とともに育つまちを目指すこと。2つ目は多様な支え合いで暮らすまちを目指すことでございます。この2つの目標に対して、それぞれの施策と展開方針を記載しております。

説明は以上でございます。よろしく申し上げます。

○**出口市長** 説明ありがとうございます。この三浦市教育大綱について御意見ありましたら、よろしくお願ひいたします。

○**川名委員** 三浦市教育大綱につきましては事務局からもありましたけれども、総合計画に基づいた内容を含めて教育委員会の中で進めております。三浦市教育大綱に記載している中にも一部ですね、総合計画と教育委員会と分離している部分がございますが、教育委員会として考えているものとして載せている次第であります。

以上です。

○**出口市長** ありがとうございます。そのほか御意見ありますか。

○**出口市長** 先ほど委員おっしゃられたように、この教育大綱については第5次総合計画、4月から始まるものですが、第5次総合計画の記載を踏まえて、非常にそれと連動する形で文言も含めて記載されています。裏面のところを見ていただければと思いますけど、1番については、こどもたちの視点に立ち、地域で育む環境づくり。

そして未来社会をしなやかにたくましく主体性を持って生き抜く力の育成、安心・安全な学校教育環境の整備。このそれぞれの中身についても、第5次総合計画でこれまで御審議いただいて、教育ビジョンの目指す目標や国の目指す方針にも合致していますので、私としてもこの教育大綱については、この現状の案に賛成でございます。

皆様、御意見お願ひいたします。

○**及川教育長** 今、市長の方からもありましたけれども、また川名委員からもありましたけれども、第5次の総合計画、これに基づいてということでもあります。また、教育に関する施策につ

いても、これまでも確認されながら進めてきたことでもありますので、整合性もとれていて、十分な形になっているのではないかと考えます。

○出口市長 はい。ありがとうございます。そのほか御意見ございますか。

○村山委員 これに関しては二人と同じ意見になってしまうと思いますので、総合計画に基づいて作られたものということで賛同いたしますし、また、みうら学、特にこういったことを大きく、広めて推進していくのがよろしいんじゃないかと思います。

○出口委員 ありがとうございます。そのほか委員から御意見ありますか。

○石渡委員 いろんな意味で脈々と、先の教育委員さんや市長も含めて三浦市の状況の中で考えられてきた教育大綱だというふうに私はとらえています。

特に顕著な部分でいえば、子どもたちの学力向上に向けての取組だとか、そういったものは現在進行形で進んでいるのかな。結果は今後どうなっていくのかっていうと思いますけど、そういう意味では、今後もこの教育大綱に沿って進めていきたいなっていうふうに思います。

○出口市長 ありがとうございます。

○廣瀬委員 私も各委員さんがおっしゃっていましたが、現状の案で異議はございません。

○出口市長 ありがとうございます。

○川名委員 大綱の期間が令和8年から令和17年の10年間ということで、10年のスパンという子育て、教育も含めてかなり長い期間っていうふうに思われてくるとは思いますけど、大綱としては10年間の期間の中でも、総合計画でも前期、後期とございますので、この目まぐるしい社会の変動の中では対応については、こちらでもスタンスが必要かなと思います。

○出口市長 ありがとうございます。それについて、大綱の理念をいかに実現させるかということで実際の施策が決まってくるので、理念自体はこの10年の長いスパンにおいても十分目指すべきものかなと思っています。実際に委員おっしゃられたように社会の変動は目まぐるしい状況ですので、それにならう実施、施策ということが必要になってくるのかなということを考えています。

そのほか御意見ございませんか。

(意見等なし)

○出口市長 それではほかに御意見ないようでしたら、三浦市教育大綱については御了承いただけたということで、この案をもって策定手続を進めさせていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

続きまして、議事の(2)三浦市学校教育ビジョンと三崎地区小学校再編についてを議題とします。本件については学校教育ビジョン等について私の考えを、話をさせていただきまして、事務局の資料説明後に御協議いただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

スライドを使用して説明をさせていただきます。これは私の考える三浦次世代教育ビジョンの方向性ということで資料をまとめさせていただきました。現行の教育ビジョンとかこれまでの教育の考え方と異なる部分もありますので、私の意見を皆様にお伝えした上で議論いただくべきと考えまして、これまで少しお時間かかりましたが今回資料をまとめさせていただいて、今日議論させていただければと思います。小さな学校がつくる豊かな未来ということで考えております。

この資料については市長である私、個人の現状の認識・意見をまず皆様にお示ししたいと、また今後は市役所の市長部局、関係職員を交えたさらなる内容検討を行いまして、教育委員会の皆様と三浦市の教育をいかに良くしていくかということをやより良い議論に活かしていきたいと考えていますのでどうぞよろしくお願いいたします。

まず、三浦市の第5次総合計画、こちらは先般、議決いただきまして、4月から開始になります。もちろん多々いろいろ記載があるんですが、私この総合計画の根幹というのは、地域の魅力を高めて支え合う社会を構築する。これが総合計画の根幹にある考え方というふうに理解しています。これをいかに実現していくかというのがこの三浦市の今後を担う重要な課題だというふうに考えています。グラフを抜粋させていただいていますが、人口問題研究所の将来人口推計の中では今後も人口減少が続きまして、例えば2040年には3万人を切り、2050年には2万3,000人台になる。そして子どもの数も減少してくるといような推計が出ております。

私としては地域の魅力を高めることで、やはり子どもができるだけ三浦市でたくさん住んでいただけるように教育、子育ての分野も含めて、魅力的な自治体にしたいとそういった思いでおります。そして全国の現状を見ますと今後、全国的に人口減少が進む中でやはり残念ながら消滅していく自治体も出てくるというふうに長いスパンでは考えています。神奈川県における消滅可能性都市というのは、三浦市、中井町、山北町、箱根町、湯河原町でございます。ここでいう、人口問題研究所の方で消滅可能性都市としていますのは、20歳から39歳の女性の人口の減少率に着目しています。2020年から2050年の30年間、減少率が50%を超えると推計されている自治体は消滅可能性都市として位置付けられています。参考までに三浦市の減少率は62.2%ということで非常に大きい状況です。

人口減少社会においては多くの地方都市、今後ですね30年後やはりインフラなどの社会資本を維持できずに残念ながら消滅していくということが考えられます。三浦市も例外ではありませんが、私は三浦市にはそれを阻止するだけの魅力若しくは強みがあると思っています。1つは農業、水産業の基地である。一次産業の拠点であるという食の基盤があるということ。今後気候変動があり、そして国際的な社会情勢が厳しさを増していく中で農業、漁業の重要性というのはより一層高まっていく。その農業、漁業の首都圏に食料を供給する一大基地であるということ。そして豊かな自然環境があり、都心に近くアクセスがいいということ。これが三浦市の大きな強みだと思っています。しかし、現状は若年層が流出している状況です。若年層の流入、定着には魅力的な教育環境が必要です。やはり若者若しくは子育て世帯がここに流入、定着しようとしたときに教育環境、子育て環境はどうかということはやはり非常に重要なポイントになってきます。子どものためにそして地域、三浦市の持続可能性のために魅力的な教育環

境をつくるというのが非常に大きな課題だというふうに理解しています。

教育モデルの転換です。これまで学校教育ビジョンの中で素晴らしい理念が今掲げられているんですけど、残念ながら縮小の論理でいかに効率化していくか、統廃合を含めた、統廃合を念頭に置いた効率化ということが考えられてきました。当然、効率化によってデメリットだけではなくて効率化ですからメリットもあってそういうことを考えてきたわけですけど、私はこの教育モデルを転換する必要があるんだというふうに考えています。外交的攻めのビジョンというふうに書かせていただいていますけど、教育をまちの活性化の中心にしたい。つまり教育が素晴らしいまちであるから三浦市に住み続けたい若しくはここで子育てしたいと思ってもらえるまちにしたいというふうに考えています。豊かな自然を生かした体験型の学習ですとか、そういったものをさらに進めていく、質の高い探求的な学びですとか個別最適な学びの実現。そして現状特にやっていないものとしては都市部との交流による活性化。こういったことを通して、教育をまちの活性化の中心に魅力のある都市にしたいというふうに考えています。

比較しますと、20世紀型、これ現状の三浦市がこうだというふうに言っているわけではなくて、過去の今までの考え方、20世紀型の教育というのは正解を早く出す。画一的な一斉授業、これは比較的規模が大きい学校というのが最適だった。今、私の認識では三浦市も小規模で工夫しながらいろいろ総合学習に取り組んだり、個別最適な学びに取り組んだりしているというふうに考えています。まさにこれがですね、右側に21世紀型と書いてありますけど、さらに推し進めていくことが今後の教育に必要なんだろうというふうに考えています。問いを立てて自分で判断する。そして一人ひとりの子が主役になってくる。一人ひとりのスキルをしっかりと育てていく。そしてクラスの中のワンオブゼムではなくて、自分自身がいろいろな物事に対して当事者意識を持つ。こういったことが21世紀の社会を生きていく上で大切なことだというふうに考えています。そしてこれは小規模校の方がこういったことを実現していくには親和性が高いというふうに考えております。

ここで文部科学省が次期学習指導要領に向けて改定していく中で、どのようなことが重要なのかという論点整理という資料がWEBでも見られますのでお時間あるときに見ていただきたいんですけど、論点整理の中の最も重要な考え方を少し抜粋いたしました。次期学習指導要領に向けた基本的な考え方として、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生の舵取りをすることができる。民主的で持続可能な社会の創り手をみんなで育む。そのために1番は主体的・対話的で深い学びの実践、2番多様性の包摂、3番実現可能性の確保、この3つの方向性を踏まえて、学習指導要領の改定に向けて議論を行うとされています。2番の多様性の包摂については、多様な個性や特性、背景を有する子どもが多くなっている実態。これに向き合うとともに、こうした多様性を個人及び社会の力に変える。この観点から一人ひとりの意欲が高まり、可能性が開花し、個性が輝く教育の実現を目指すものであり、第一の方向性と両立させることが不可欠な第二の方向であるとしています。この黄色のところ書かせていただいている多様な個性や特性、背景を有する子どもが多くなっている実態。まさに私、この文部科学省の論点整理のとおりだなというふうに考えています。不登校児童も増えている中で、この多様な個性や特性、背景を有する子どもをいかにしっかりと包摂して育てていくか。これが今私たち社会に、大人に問われていることなんじゃないかというふうに考えています。

続きです。このため、裁量的な時間をはじめとする調整授業時数制度の創設等々により、教

育課程全体を包摂的な仕組みに改め、その具現化を図る。さらに、このみんなとは何かということ。みんなが示す主体は、学校教育の未来を切り拓く中心的な存在である学校の先生はもとより、学びの当事者である子供、そして人口減少の中で子どもを支える主体でもある保護者や地域住民、これ私たちのことだと思えます。保護者や地域住民、地方公共団体の職員、民間の担い手もこのみんなには含まれ、社会に開かれた教育課程や個人と社会のウェルビーイングの実現といった理念とも深く関わるとされています。つまり、学校教育というのを学校の先生、そして子どもだけに任せるものではなく、自治体、そして地域の皆様、企業、NPO、そういった多様な関わり手がそこに参画して、子どもたちのより良い学習環境をとというのを担保していくと、この努力が必要なんだというふうに理解しております。

少し長くなりますが非常に大切なことを語っていますので続けさせていただきます。自らの人生を舵取りする力と民主的な社会の創り手の育成、正解主義や同調圧力への偏りから脱却し、民主的かつ公正な社会の基盤としての学校を機能させる必要性が指摘された背景には社会全体の構造変化がある。生成AIなどデジタル技術の発展が相まって皆と同じことができることも重要だが、それ以上に独自の発想や視点に価値が置かれるようになってきている。現在の学校教育の中で主体的に学びに向き合えていない子供も多くなってきている。予測困難な時代にしなやかに自分の人生を舵取りできる力が不可欠となりつつある。まさに今、正解主義や同調圧力の偏りから脱却して、人それぞれ自分の意見をしっかり持ちそれを発信できる表現できる力、このことが非常に重要だと。それにはやはり教育のあり方っていうことはもっと真剣に考えていかなきゃいけないというふうに考えています。現在の学校教育の中で主体的に学びに向き合っていない子供も多くなってきている。これも私は一人の親としても感じています。今後、やはり私たち大人がもう予測できない社会になっていくと。その中でしなやかに自らの人生を舵取りできる力が不可欠になってきている。このように理解しています。

一人ひとりの好き、興味・関心を育み、得意を伸ばしながら、それらを原動力として学び全体への動機付けを行っていく取組と当事者意識を持って自分の意見を形成し、多様な他者との対話や合意を図る取組を同時に進め、これが有機的に関わり合い高まっていく教育課程に変革していく必要があるんだというふうに論点整理では述べられています。学び全体の動機付けを図っていく取組。これが本当に重要だというふうに考えています。なかなか学校教育の中でなぜ学ぶのか。どうして自分は学校で勉強しているのか。これがやはり腹落ちできるかできないかによって、主体的に学べるか学べないかわ変わってくると思っています。子どもたちが主体的な動機付けをしっかりと図っていけるようにしていきたい。それにはそういった教育課程に変革していく必要があると文部科学省でも考えていますし、私もその考えには賛同いたします。

これは私の意見です。これらのことを実現していくには、可能な限り地域に根ざした現在の学校体制を維持して、少人数学級のよさを生かしながら教育のあり方を変革していく必要があるというふうに考えています。そして今述べた文部科学省の論点整理、今後の方向性なんですけど、これらのことを実現していくのは当たり前ですが子どもではないんですよ。私たち大人であり、地方自治体の正に皆さん教育委員会であり、学校現場。そしてそれを支える三浦市でございます。これに積極的に取り組まない自治体というのは、どんどん取り残されていくことを示唆しているんだと思っています。自治体間における教育格差が今後拡大することが懸念されます。反対に積極的に取り組んでいけば、その自治体の魅力が高まっていくというふうに考えています。

三浦ならではの教育的資産ということで、すでに海洋教育に取り組んでいただいて、私これはすばらしいと思っています。自然と対話する濃密さということです。都市部にはない三浦の豊かな自然環境。少人数だからこそ実現できる教師と生徒。生徒同士の対話、コミュニケーション。こういった少人数だっていうことは過疎の象徴ではなくて、この豊かな自然環境、そしてきめ細やかな教育というのは理想的な教育環境なんじゃないかなというふうに考えています。海洋教育の部分でございますけど、三浦市でこれまで実践してきた海洋教育をさらに豊かに発展させることで、先ほど述べました主体的・対話的で深い学び。この実装、実現ができるのではないかとこのように考えています。これは少し大げさかもしれませんが、世界に誇れる教育的資産ではないかなと思います。この豊かな自然環境、海をベースとした資産、これを最大限に生かすことで三浦ならではの教育、これが実現できる。そのように考えています。

そして効率化ということで、当然効率化は必要で今先生方の働き方改革、残業ですとかそういったものがいかに働きやすい職場を作るかってことが重要になっていると思います。それはやはり教育委員会と三浦市が教員を支えて負担を軽減していく。そのことが必要であると考えています。教員のスキルアップや小中学校の連携については仕組みで改善していくことができるのではないかと思います。まずは今、保護者としても非常に感じていますが、学校で様々なトラブルがあります。それは保護者とのトラブルも当然あれば、子どもの間のトラブルもある。そういったトラブルを先生が担って解決を図っているわけなんですけど、今三浦市でもスクールカウンセラーを配置させていただいていますが、まだまだ配置が不足してまして十分にケアできていない状況です。やはりこのスクールカウンセラーの増員、巡回強化ということがまずは必要だと思っています。心のケアは専門家が担い、先生は授業に専念できる環境、これが必要だと思っています。

そしてICTによる業務の効率化です。これICTというとお題目のように感じるかもしれませんが、横須賀市が来年DXを使って学校教育現場の効率化ということがちょうど今日の神奈川新聞に出ていました。例えばですね、生徒の成績管理ですとか、出欠その他必要な生徒の情報なんかというのを1つの共通のプラットフォームを作って、小中学校で同じ仕様にして管理することで小中の連携が促進できるし、先生の事務作業も軽減できる。今そういったシステムというのは開発できる企業たくさんありますので、こういったところで働き方改革を促進することなんかもできるんじゃないかなと思います。

また、小規模校になると先生の人数が少なく、なかなか先生同士で高め合ったりする時間がもう取れないというお話も聞きますが、例えば専門教科の教員や経験豊富な教員が市内を巡回して、若手教員の成長を支える。そんなことも考えられるんじゃないかなというふうに、まだアイデアベースですけど私としては考えています。

規模が大きくなったときの生徒のリスクということなんですけど、まずその大規模校では大勢の中の1人となり、主体性が見失われる懸念があるということ。そして、これまでの教育ビジョンや総合教育会議でも通学の問題が議論されてきました。これ保護者の方も不安になる、懸念される大きな点ということで議論されてきたわけなんですけど、遠距離バス通学ということが1つ考えられますけど、当然財源上の課題もあります。そのほかに、自分の住む地域と引き離されてしまうことや放課後に限られた友達としか遊べない環境を作る。そういったことにもなりますので、私は好ましいとは言えないなと思っています。あとは規模が大きくなれば、小さなSOSを見逃しやすい、きめ細やかな配慮が届きにくい。こんなことも当然考えら

れると思います。市長の立場、そして総合計画で魅力的な地域をつくっていくと、そういった観点から見ますと、学校が消えていくということが非常にその地域社会への負のインパクトが大きいわけです。コミュニティの脆弱化、運動会やスポーツイベントなど多世代が交流する拠点が失われて、地域の繋がりが少なくなっていく。今は防災防犯機能の脆弱化、避難所としての機能や日々の子どもたちの見守りという地域の目が減少していく。

そして私が強調したいのは3番です。人口流出の加速ということをやはり懸念しています。学校がないということで子育て世帯が転入しにくくなる転入障壁が生じてくる。このことによって過疎化が進んでいくということです。これについてはやはり私の立場からはできるだけこういった事態というのは避けたいというふうに思っています。

三浦の教育をひらいていくという発想があるんじゃないかというふうに考えています。外から人を呼ぶという発想。これも必要なんじゃないかと思います。例えば比較的すぐ実現できるだろうと、ほかの自治体でも興味を持っていただけるだろうと思うのが体験型の短期留学、例えば夏休みや土日でもいいんですけど、三浦の豊かな自然、海をはじめとした自然にほかの自治体の子どもたちに来ていただいて、そこで学び若しくは三浦市の子どもたちの交流の機会を作っていく。こんなことは比較的やりやすいことなんだろうというふうに考えております。

そして、これはセカンドステップということでデュアルスクール構想。これについては簡単ではないと思いますが、都市部の親子が一定期間、三浦に居住しながら地元の学校に通う二拠点居住教育という可能性があります。山村留学などいろいろな場所で実績がありまして、こういったことと同じ発想で三浦でも将来しっかり環境を整えることができればこんなことだって、決して不可能なことではないんじゃないかというふうに考えております。

少人数学校の懸念としては人間関係の固定化ですとか、子どもの社会性を育むことができないんじゃないか、そういった懸念が挙げられると思います。これに対しては市内での交流を活性化していくこと。そして市外から来ていただくことで活性化していく。こういった2つの方策があるんだろうと思います。まず市内ですけど、現状では中学3校、小学校7校あります。市内全校交流ということで学校間交流はすでに実績のある部分もあります。市内全小学校や同じ地域の同級生が集まる授業や行事。例えば運動会は同じ地域で一緒にやってみようとかですね。当然先生方のご負担もありますのでハードルはあろうかと思いますが、そういった同じ地域で運動会を一緒にやるなんてことも考えられると思います。小規模校の安心感を持ちながら、例えばほかの学校の子と触れ合ったりすることで、大人数の集団、アウェイな環境にも慣れる場を保障できるんじゃないか。いろんな人と刺激的に交流できる機会もつくれるんじゃないかと思います。皆さん御承知のとおり、今市内の中学校では吹奏楽部の合同演奏会も行われています。先日の港音楽祭、非常にすばらしかったんですけど、すでに複数の学校が同じことをやるっていうことは実現していますので、そういったことも考えられると思います。あとは都市部との交流ということで、都市部からの留学生なんかちょっと短期的に学びに来ていただくのかわかりませんが、都市部からの生徒を受け入れる企業・NPOとの連携授業。そういったことが考えられます。全く異なる価値観を持つ他者と交わることで子どもたちの視野を広げていけるんじゃないかと思います。

地域再生の核としての教育ということで、もちろん教育だけでその地域の活性化が何とかなるものではなくて、観光もそうですし、安心して歳を老いることができる福祉若しくは教育以外の子育ての部分。そういったことも当然複合的にやっていかなきゃいけない中で、やはり教

育というのは1つの核になるというふうに考えています。教育を入口に関係人口からここで教育を受けたいと、子どもを育てたいと思っていただける定住人口の流れを促進していきたいと。三浦で学んだ子どもが誇りを持って、都市部の子どもも三浦を好きになる未来。そして三浦に教育のために移住する。そんな未来を作っていきたいというふうに考えています。

皆様へなんですけど、三浦市これまでも皆さんもご苦労されてきたと思うんですけど、なかなか予算が潤沢ではなくて厳しい財政状況にあります。しかしながら、教育への投資は未来の最も確実な投資だというふうに考えています。最後に地域や社会の希望をつなぐのは人であり、これから大きくなる子どもです。私が市長である限りは教育環境を改善し、魅力ある教育環境の形成に最大限努力します。学校の統廃合は最良の選択肢ではなくて、これ私の意見ですが最後の選択肢だと思っております。子どもたちのために、そして地域のために一緒にぜひ皆さんと考えていきたいというふうに考えています。簡単な道のりではありませんが、三浦市を教育と子育て先進自治体にする。その一步を踏み出したいというふうに考えています。

続きまして、もう1つ資料があるので少しお時間をいただければと思います。

もう1つの資料は今、現状の学校教育ビジョンについて、私が改善する余地があると思っております。改定する必要があると思っております、もっと良くしていく必要があると思っております。それが何なのかということをしっかり皆さんにお伝えするために作っております。同じように、現状では私個人の意見ということで、これから皆さんとしっかり議論していきたいと思っております。

まず、学校教育ビジョン、当然皆さん読まれていると思うんですけど、ここを読んでいただいたときに左側のビジョンの理想ですね。未来社会を生き抜く力、個に応じたきめ細かな指導、地域との協働・連携、自己肯定感、自己有用感の育成。非常にすばらしいビジョンを持っています。これが目指すのは質の深化だと思っております。こういったすばらしい理想に対して、その実現の手段がかなり十分ではないと思っております。この三浦市の学校教育ビジョンをぜひ虚心坦懐に読んでいただくと、この理想に対する手段というのが不十分だというふうに考えております。この手段というのが小中の一貫教育、そして学校の統廃合による効率化。当然なぜこの手段を選んだかという理由もあるわけなんですけど、それにしても左側の理想を実現していくためには、十分な手段が語られているとは私にはちょっと思えないということで、これはビジョンの理想を実現する手段として、論理的に十分ではないというふうに考えています。

例えば小規模校とか複式学級については、皆さんが質が落ちると言っているわけではないんですが、質が落ちるといふ議論があります。しかし、例えば岩手県の調査で平成29年に複式学級と県平均の学力を調査した結果があります。この結果では複式学級で学んだ子どもたちの方がいずれの教科も県平均を上回っているという結果が出ております。やはり少人数できめ細かな指導をすることで子どもたちの学力がしっかり上がっていくという結果だというふうにとらえております。

また、これは海外の調査結果ですけど、グラス・スミス曲線っていうのが今回私もいろいろ調べる中で知ったんですけど、そういう認められた研究があります。これは学校規模と学習効果の関係を示した有名な研究だそうです。クラスの人数が20人を下回ると、学習の達成度が劇的に向上するという結果です。これグラフを見ていただくと三角が学習の達成度、四角が情緒の安定度、そして丸が教師の満足度です。学習・学力面だけではなくて、子どもの情緒、つま

り心の安定も向上していくし、先生の満足度も上がっていくという研究があります。やはりこういった研究成果については、しっかり踏まえた上で議論する必要があるんじゃないかっていうふうに考えています。ですので、やはり学校を大規模化してくってということに対してやっぱりこういう研究も踏まえて、本当にその方向がいいのかってことはしっかり議論しなきゃいけないんじゃないかと思います。

令和の日本型学校教育ということで、個別最適な学び。これはICT活用等がどんどん進んでいるわけなんですけど、こういった授業においても、少人数教育というのは相性がいいと思います。そして多様な協働ということで、複式学級を目指しているわけではありませんが小規模校における異年齢の学び合いということも起こりやすいです。やはり同質性の高い大規模校ということが、人数が大きければ多様なのかということもありますので、異年齢との交流というのも重要になってくる。そして心理的安全性というのは子どもの学びの場もそうですし、大人の組織においてもそうです。教師が全生徒の特徴を把握できる環境。これは不登校やつまずきの早期発見に繋がります。誰も置き去りにしない教育というのに相性がいいんじゃないか。

学校教育ビジョンの理想を実現するためにはその統廃合ありきではなくて、教育の中身を議論していく必要があるんじゃないかなと思います。先ほども御発言ありましたけども、社会はすさまじいスピードで変化しています。次期学習指導要領を見据えて三浦市学校教育ビジョンの改定に向け、ぜひ議論していきたいというふうに思っています。

私からの最初の説明は以上です。その後、事務局から説明をお願いします。

○浦西教育総務課長 それでは三崎地区の小学校再編に関する資料について説明いたします。

まず資料1を御覧ください。こちらにつきましては、令和7年9月1日現在の児童数と住民基本台帳に基づく今後の児童数の推計を表したものです。数字がいくつか書いてあるので説明いたします。

まず1ページ目の三崎小学校の令和7年のところの棒グラフがあると思いますが、そちらに101と書いてあるこちらが現在の児童数でございます。（6）というのがクラス数、【7】というのが教員数となっております。棒グラフが6つに分かれているんですけども、下から1年生から6年生という形で見ていただければと思います。それが令和7年から令和13年までの推計がこちらに示されております。こちら各小学校ごとで三崎小学校、岬陽小学校、名向小学校という形で1から3ページまであります。4ページ以降は三崎小学校と岬陽小学校等の統合した場合の児童数ということで示させていただいております。

次に資料2を御覧ください。こちら令和7年9月1日現在の住民票基本台帳と児童数から示しているんですけど、これは男女比でございます。こちらと同じく各学校ごとと統合した場合の資料となっております。

続きまして、資料3は各学校の校舎、体育館、校庭などの比較ですね。あと、公共交通機関だとバス停からどのくらいの距離にあるのかとか、都市計画上はどのようなものかとか、学校ごとの比較表となっております。

簡単ですが、説明は以上となります。よろしく申し上げます。

○出口市長 説明ありがとうございます。御意見ある方はよろしく申し上げます。

○川名委員　まず市長からいただいた御意見の中で2つほどなんですけれども、私も子育て世代として市長からありました教育と子育ての先進自治体という言葉につきましては、本当に心温まる思いでございます。その中で冒頭に市長から御説明いただいたところ、施策ではなくて市長個人の御意見とアイデアベースというものを含めてお話をいただいていたと考えております。とはいえですね、今回傍聴されている方々も含めて、この資料を含めて様々な形で開示されていく中で少し市民の方々も含めて誤解されないようにしていただければなというところが市長からのお話の中でございます。

また、この小学校再編ということで事務局の方から御説明いただきましたけれども、劇的に人数が減っている事実は否めないのかなと、まずまず思うことでございます。

○出口市長　最初に説明させていただいた注意については、私がこの資料を作り、まとめられたのが本当に数日前でまだ市長部局の職員ともしっかり議論できてないという現状がありますのでそのような形にさせていただきます。ただ、アイデアベースというよりはこういう政策を私は実現していきたいということです、この政策について今後実現するためにどういった課題があるのか。それは財源もそうですし、そのほかの部分もそうですけど、それをしっかりと議論して実現していくことを私個人としては考えています。当然それにおいて、この総合教育会議で皆さんと議論させていただいて、教育に関することですので教育委員会の皆様に御理解いただくことが前提だというふうに理解しております。

そして、2番目の子どもの数が急速にというか減っているということについては、当然それは私もそこに目を背けるってことはできないと思っていますので、特に三崎小学校については令和12年になりますと小学1年生が3名のクラスが出てくる若しくはもうすぐ令和8年ですから来年ですかね。5人のクラスが出てくるということで非常に少なくなって複式化ということが見えてきていますので、これについてはしっかりと議論していかなければいけないと考えております。

そのほか御意見ございますでしょうか。

○石渡委員　私も市長が効率化への答えというところの中で、一人ひとりの子どもを大切するという意味では、そのスクールカウンセラーの抜本的強化とか教師ではできない専門性の中での子どもの心だとかそういう方を増強してもらって本当にすばらしいことだと思うし、あって欲しいなと思っています。

それから文科省で言っているGIGA構想の中でこのICT教育っていうのは、私も10年前まで教育現場にいて、それで今こういう立場にいますけども、三浦市でも画期的な教育が進んでいるという意味では教育委員会にありがたいなと思っています。それをバックアップしてくれる市の体制もあったと思うんですが、そういう意味で今後ともお願いしたいなというふうには思います。

それから巡回指導ということで今よく目立つのは、例えば英語教育にすごく積極的に取り組んでいただいて、教育委員会として様々な形で英語の先生の配置をしていただいたり、三崎小学校で先日見せていただきましたけれども、発表の中で外国の学校と交流するなんてそういうのも着実に進んできて、本当にありがたいなという良い意味での三浦市の進歩じゃないかなというふうに思います。

ただ、市長も御存知かもしれませんが、先日、教育委員としての文科省の研修を受けたんですが、学校の適正規模というのは文科省では12学級から18学級ぐらい。大体小学校でいえば2クラス以上。それから中学校でいえば3クラス以上ぐらい。そういう規模を考えているというふうに言うておられました。実際はその自治体に応じて作っていただければいいというふうに思うんですが、教育の質を上げるっていう意味がね、市長もそうだと思いますけども、多分40人学級の時代だったかな。我々は45人学級。先輩たちは50人ぐらい。そういう意味での劣悪さは非常に感じますけれども、市長が提案した20人という壁ということなんかよくわかって、私も現役時代はそういうふうになればいいなと思っていました。いわゆる多様性とか言われていますけれども、ある程度人数がいる中で教育っていうのは進むのかなと思います。現場にいた人間としてね。統合した南下浦小学校もぐっと雰囲気が変わって、剣崎小学校の子どもたちがきて、ある程度的人数が増えてきたっていう中で学習している姿を見ると、特に顕著だったのは運動会であったり、学校見学の中でプラスの要素だとかっていうのを感じる部分っていうのは、やっぱりある程度的人数は必要なかな。子どもたちに対する質の高い教育っていうのは、先生方はいろんなことの中で努力していますので、またさらに一層進むのかなと思うので、いわゆる三浦市が教育ビジョンを求めて進めているっていう部分はそんなに不自然なことじゃないと思うんですけどどうでしょうか。

○出口市長 最初にICTのところから、今GIGAスクール構想で子どもに向けて、タブレットを支給したりして進んでいますよね。先ほどちょっとご提案したのは、これやっぱり子どもの教育だけじゃなくて、学校の先生方のいわゆる事務作業効率の改善にもぜひ検討いただきたいなと思っています。私は学校教育現場にいたことがないのでわかりませんが、まだまだICT化は管理の面で進んでないだろうというふうに想像していますので、その想像が外れていないのであれば、各自治体でもいわゆるこれ企業でもそうですけど今システムとかソフトウェアで進捗管理ですが、いろんなものを管理しています。市役所も今そういうことで投資をしている。学校教育現場もそうであることで、忙しい先生方に少しでも時間を作っていくことができるんじゃないかと思っています。

学校の部分については人数ですかね。例えば、私も率直な意見を言わせていただくと、まず学校教育ビジョンの1中学校区1小学校ということで掲げられています。現状においてこの資料見ていただくと、三崎小学校については先ほど申し上げたとおり、複式化がもう目の前に見えている。これは私の率直な意見としては、やはりこれぐらい人数が少なくなってしまうと近隣の小学校との統合を検討していかなきゃいけないだろうというふうな認識はあります。ただ、ここで今日皆さんにしっかりお伝えしたかったのは、学校の統廃合というのは、本当に最後の手段だと思っているんです。一定の規模で、複式、このような三崎小学校が令和12年ぐらいの数になってしまうと、なかなか一定の規模も担保できなくなってくるという理解なんですけど。そうならない場合は、できるだけやっぱり学校は先ほども力説させていただいたように、地域にとっても、三浦市にとっても、そして今後の子どもたちにとっても大切な場所ですので、できるだけそれを残して、しかもこれから前向きないわゆる施策をしっかりと打っていくことで、魅力のある学校をつくっていく。そしてできるだけ子どもたちを増やしていく。そういう施策に取り組んでいくべきだということで、学校教育ビジョンの1中学校区1小学校という考え方に私は賛成できないんです。それは別にも目指すべき姿ではなくて、最終的に児童が

少なくなってしまうと、もうどうしようもなくなればそういうふうな形にならざるを得なくなると思いますが、それを目指すべき未来として語るのには、私は違うんじゃないかということで、私は先ほど申し上げたのが目指すべき未来じゃないかなというふうに考えています。

○及川教育長 学校教育ビジョンがその1中学校区1小学校を目指しているというふうに市長が以前から言われていますけども、学校教育ビジョンというのはそれを目指しているわけではない。そこのところはよく読んでいただきたいと思う部分なんですけれども、学校教育ビジョンというのは、そもそもは三浦市の現状として子どもの数が減っていく、減っていくことが予測されている。そしてそれに伴って学校が小規模校化していく。そうした中で三浦の学校教育をどのようにしたら充実させていくことができるのか。またはその質を高めていくことができるのかということがもとなんです。そのことをもとにして考えていったときに統合なんてことを最初から言っているわけじゃないんですよ。どうしたら教育の質を高めていけるのか。先ほどのスライドにも文部科学省の学習指導要領のことが書かれていましたけども、学習指導要領の中で主体的・対話的な深い学びのある、そういう授業を目指していくというふうなことが書かれていて、それは協働的な学習の中でさらに深めていけるってようなことが書かれている。それを学校教育の中で、それぞれの教室の中で実現していくためにはどうしたらいいかということを考えていったときに、ある一定規模の子どもが必要だよ。そういうふうにしたときに、先ほど言ったような授業って展開できるだろうと。さらに教育の質を高めていくためには、1人の子を小学校っていう6年間だけでなく、中学校も含めた義務教育の9年間というスパンの中でしっかりと見ていくことによって、その子に合った教育、その子を中心に据えた教育ということが実現していくことができるのではないかと。ということで小学校6年間と中学校の3年間を教育課程としてつなげて考えていける。そういう体制をとっていくことが望ましいのではないかっていうことで小中の連携ということが出てくるわけですね。

小中の連携をさらに進めていくためにはどうしたらいいか。例えば具体的に小中が連携した形を授業の中でとっていくためには、中学校の先生がその教科それぞれの専門性がありますので、その専門性を持って小学校の子どもの指導に当たるという体制がとれたとしたならば、小学校の担任がすべての教科を教えているのが通常で、今教科担任制っていうのも出てきていますけれども、それをさらに三浦のコンパクトな中で進めていくためには中学校の先生が小学校に行けるようなそういう環境を整えることもいいだろう。

三浦にはこれまでの市の成り立ちといったほうがいいかもしれませんが、そうした中では三崎地区、南下浦地区、初声地区それぞれ地域の中での強い繋がりがある。それを教育の中にも生かしていくことができるのではないかと。ちょうど今それぞれの地区には1中学校がある。中学校と小学校が先ほど言ったような、先生がそれぞれの学校に行って授業ですとか、会議ですとかそういうことをするとしたならば、例えば中学校の先生が小学校が3校あれば同じことをするために3回中学校を離れなければいけない。それっていうのは現実的にはやっぱりなかなかかなわないことなんです。今それを辛うじてかなえられているのは初声地区で、初声地区は1つの中学校に対して1つの小学校があるから行けて、教科の授業などもできている。そういう環境を整えていくことがより質の高い教育。中学校の先生の専門性を小学校で生かせるような、そういう環境を整えた質の高い教育ができていくのではないかと。

また、小学校の6年ということと中学校の3年ということを考えると、子どもにとっては小学校から中学校に上がる。同じ地域の中にはあるけれども違う学校に行くわけですね。環境が大きく変わる。その環境が大きく変わることによってのストレスがあつてですね。そのことがもとによって、なかなか学校に行きづらかったりというふうなことも出てきている現実がある。そうした子どものストレスを解消するという意味でも、小学校のときからその子が中学校の先生のことを知っている。これから行くことになる中学校のことを知るということは、子どものストレスをやわらげてあげることにもなるということで、そういう9年間の繋がりがついているのはその子にとってのストレスと申しますか、環境が変わることへのストレスを減らしてあげることにもなるだろう。そのほかにもありますけれどもそういうことなどを考えながら、最終的にある一定の規模を作り上げること、整えてあげることができるであろうということの統合というような考えが出てきて、そしてさらに先ほど言った小中の繋がりを考えたところで、1中学校区1小学校ということが出てきているので、初めからそれがあつてというようなことで市長は言われていますけれども、そうではない。今まで何度も申し上げてきていますけれども、なかなかそれをご理解いただけてないというのは残念なところであるんですけれども、そういうことであるということはまず確認していただければと思います。

○出口市長 その場合にやっぱりその教育ビジョンの書きぶりを考えたほうがいいと思います。教育長が今おっしゃった1中学校区1小学校を目指しているわけではないとおっしゃいましたが、教育ビジョン、実行ある取組について、ちょっと重要なので読み上げさせていただきますけど、(1)9年間を見通した教育課程編成、今まで以上に義務教育9年間の児童生徒個々の成長過程を小・中学校の教員が共有した適切できめ細やかな学習指導、生徒指導を実現する必要があります。

学習内容や指導方法等、義務教育9年間の連続性のある教育課程のもと、系統性を意識した学習指導や共通の指導方法・学習規律について小・中学校の教員が共通理解をさらに深めれば、児童生徒の更なる学校生活の安定と学力向上が期待できます。

また、中1ギャップの問題や中学校における長期欠席・不登校の課題についても義務教育9年間をとおして、児童生徒の理解を図ることの重要性を小・中学校教員が認識することにより、よりきめ細やかな指導が可能となり、現状の改善が期待できます。

以上の理由から、三浦らしさを生かした小中連携教育を段階的に推進し、将来的には1中学校区1小学校の学校体制を整備したうえで、小中一貫教育の実現を目指します。

この最後の段落というのは自然に読めば将来的には1中学校区1小学校の学校体制を整備したうえで、小中一貫教育の実現を目指します。ですので、1中学校区1小学校を整備して小中一貫教育を目指すということですので、やはりこの書きぶりだと先ほど教育長が言われた1中学校区1小学校を目指しているわけではないと、おっしゃっていることと矛盾が生じているのでやっぱりこれ改定すべきではないかというふうに考えます。

そしてもう1つはやはりこの議論でぜひ踏まえていただきたいのは、今教育委員会で総合教育会議ですけど、私が申し上げたようにこの三浦市の地域をどうするかという視点もやっぱり必要だと思っているんです。やっぱり教育っていうのはこの地域の将来をどうしていくかという議論でもありますので学校の中だけではなくて、この地域をどうするかという視点も踏まえてぜひ議論していただきたいと思っておりますし、小中一貫、連携ということでは先ほど申し上げ

たICTによる連携もできますし、別段その先生が例えば中学校が1つ、小学校が3つあったときに各小学校に回らなくても、各小学校の子どもたちがその中学校にある日行って、将来一緒になる同級生と顔を合わせて中学校の先生の授業を受ける。なんてことも当然考えられるわけで工夫のしようによって、いろいろできることがあるんじゃないかというふうに思います。ですので、教育長も言われていることはこの教育ビジョンに書いている内容とやはり整合していないのでやはり改定はすべきじゃないかと思います。

○及川教育長 最終的に1中学校区1小学校になるということはあるんだと思います。ただ段階的と言っていることについては、すぐにそれをということではなくですね、ちゃんと声を聞きながら進めていきますよということ踏まえてのことですのでそこは御理解いただければと思います。市長の考えということも先ほどスライドでも見せていただいたんですが、最初に市長が御自分でお話ししていたように、お話しされていることってというのがまだまだ市内の調整とかね、そういうのが取れているものではないので、そこを十分に調整した後に今後のことを考えていくというのがいいのかなと思います。

○出口市長 はい、そうですね。それは必要だと思っております。

もし教育長がそのようにおっしゃるのであれば、1中学校区1小学校の学校体制を整備したうえで、小中一貫教育の実現を目指しますと書いてありますので、今そこを目指しているわけではなくて、将来的にそうなることがまず人口減少によってそうなる将来があるのでということであれば、それは目指す姿じゃなくて最終的に結果としてそうなるということ。これは確かにあり得ることだと思います。自治体としてはそうならないように努力していくわけなんですけど、やはりそうするとその目指すべき方向性がこの教育ビジョンに書かれているものと、教育長が別に目指しているわけではないとおっしゃっていることとやっぱりそこは違いますのでそこはやはり……

○及川教育長 市長はまずそれを根底に据えてっていうふうな言い方をしているのでそれは違いますよって言っていることですので、市長が学校教育ビジョンを取り上げてお話ししているのと、市長が1中学校区1小学校をまず根底に据えているのが今までも議会などの中で遺憾だというふうな言葉を使いながら言ってきたかとは思いますが、最初からそれを据えているものではないということは御理解いただければと思います。

○出口市長 そうだとするとこの書きぶりはおかしいと思います。

なぜなら書いてあるわけですから。将来的には1中学校区1小学校の学校体制を整備したうえで、小中一貫教育の実現を目指しますって書いてあるわけですから。

○及川教育長 そういう形になれば、小中一貫の実現はかなえられる形になりますので、そうなったら目指していきますよということでもありますよね。

○出口市長 先ほど目指しているわけではないとおっしゃられたと思うんです。

○及川教育長 最初から目指しているわけではないと言ったわけです。

○出口市長 ちょっとそうするとおっしゃっていることがよくわからないんですけども、目指すべきものが最終的に1中学校区1小学校にして小中一貫教育なのか、それとも私がここで説明したものなのかによって、全然、その政策の方向性が変わってくるわけですね。結果的にそうなる、なってしまうということはあると思います。

○及川教育長 なぜ私が先ほど発言したのかというのは、市長が1中学校区1小学校を最初から目指しているというふうに言われたのでそれは違いますよって言ったことであって、形を整えばね、その形をさらに利用して小中一貫の教育を進めるということはやっぱり最終的に三浦市として教育を充実させていくためにはある姿なんだろうなって考えます。ですから、最初からということと、最後こういうふうになりたいということは違うということは確認したいなと思っています。

○出口市長 そうすると非常にやはりこの表現と整合という意味では不十分だと思いますので、やはりここは検討していくべきだと思います。

○及川教育長 市長がまず1中学校区1小学校を目指すというふうに言っていることが違うということは、それも確認していただければと思います。

○出口市長 私が言っているんじゃないくて、教育ビジョンに書いてあります。

○及川教育長 そうではなくて、市長が教育ビジョンのことを見直しが必要だというその理由として、1中学校区1小学校を根底に据えているということは、私としては遺憾だというふうなことを今まで言ってきたことに対して述べたということです。

○出口市長 ですから、目指すべき理想に対して実効性のある取組で実現を目指しますって書いてあるので私は言っているわけで、僕が言っているんじゃないくてここに書いてあるから言っているんですよ。それについて私はやはり再考の余地があるんじゃないかと。

○及川教育長 根底に据えているのではなくて、いかにして教育を充実させていくかということを考えていくとそういうことになるということであって、最初から1中学校区1小学校があって、それをどう進めていくかということではなくて教育を充実させるためにどういうふうな取組をしていったら、三浦の学校教育を充実させていくことができるかっていうことを考えていった最後がその1中学校区1小学校というふうに書かれているわけですね。

○出口市長 教育長のおっしゃることはわかりました。理解はできないですけど。そうすると育みの実現の中でということで、先ほど申しましたけど主体的で対話的な深い学びの実現ですとか、そのほか理想があってその理想に対してその実行性のある取組が余りにもやっぱり足

りてない。教育ビジョンで掲げている実行性のある取組の内容というのが率直な言い方で申し訳ありませんけども貧弱であると。ここをどうやって主体的で対話的な学び、子どもたちが自己肯定感、自己有用感を育めるのか。多様性を理解できるようになるのか。不確かな将来に対して自分自身の人生を舵取りできるようになるのか。その教育の内容、ビジョンというのをやっぱりここに詰め込んでいくべきだと思うんですよ、それがやっぱり足りてないと思うんです。

○及川教育長 市長が先ほどお話しした中で次期学習指導要領のことが書かれていましたけども論点整理をされてることってのはもう十分承知をしています。これは次期学習指導要領の策定に当たって中心的な立場になっている方っていうのは、以前、神奈川県内の市で教育長をされていた方なんです。ですから、その方はよく神奈川にきてそういう話もされていて、十分承知をしているんですが、最後に自分の考えとしてはということ、その論点整理をしているところで文科省が目指していくものということと、市長がこの三浦市の実態に合ったっていう言い方になるのかもしれないけども、言っていることっていうのはやっぱりちょっと飛躍があるというふうに思います。ただ、目指そうとしていることをいかにしたら実現していくことができるのかっていうことを考えていくことは大切です。

市長が具体的に挙げられたことっていうのは、やはり教育だけで考えられない。教育だけでは解決できないことっていうのは結構あるかな。一番にはその財政的な裏付けがあるかどうかということになると思うんですけども、そういうことの議論をしながら三浦の現状としてどこまでそれが実現していくことができるのかっていうことをまず調整しながら、目指すところはいいですよ。ですけど、1つ1つ見ていくと簡単に教員が増やせる。巡回云々なんていうこともありましたけども、ああいう人を置くためには国や県が配置してくれた教員の数が足りないわけですね。三浦市でその人をどうやったら確保できるのか。例えば今までの市長とは不登校対策のことで議論をしてきましたけどもね。そうした中でお願いをしてきたスクールカウンセラーのことですとか、あとは校内支援センターの指導員のことですとか、そういうことって市長と話したときには市長はいいですね、そういう方向でっていうふうな言葉をいただきながらも、実際に予算を編成する中ではかなわなかったということがあって、やはり現実難しいなっていうところはたくさんあるかなと思います。素晴らしいお話がたくさんありますので、それをどういうふうにしたら実現していけるのかっていうことを政策面ですとか財政面ですとか、そういうことと擦り合わせをしながら協議をしていくということが今後なのかなと思います。ですから、市長がここで言われていることっていうのは、やはりまだそういう擦り合わせの必要な部分がありますので、意見としてはここでは言いにくいかなというふうに思っています。

本来ここは今後の三崎地区の学校再編のあり方っていうことを述べていく場なんだと思うんです。今日の議題としても。

○出口市長 三浦市学校教育ビジョンと三崎地区小学校再編についてですね。

○及川教育長 それですね。さっき教育総務課の方から資料の説明がありました。この資料というのは今まで市長にもお断りをしながら進めてきた三崎地区の意見交換会で出している資料

です。三崎地区の3つの小学校ですけれども保護者の代表としてPTAや学校の管理職に集まっていたいてお話をしたときの資料なんですけども、三崎小学校が統廃合の検討対象校になっているっていうことが三崎地区の意見交換会を進めている理由なんですけれども、現実的な話としてやっぱり保護者はとても不安に思っている。特に三崎小学校が令和10年に複式学級が見込まれる。令和13年になると2つの複式学級が出てくるというふうなことっていうのは保護者としてはとても不安に思っているというお話も随分うかがいました。

また、人数が少なくなっていくと男女のバランスっていうのもずれるんですね。多くなればなるほど男女のバランスってほぼ同じぐらいになるんですけど、少なくなってくるとそのバランスっていうのは崩れて、そこのところを心配するというのはこれまでの三崎小学校の統廃合のときなどにも随分と保護者からいただいた声なので、男女のバランスということについても目を向ける方もいて、御意見を聞いている中でもそこのところがもし1人、2人その学校から違う学校に通うっていうことになったときには、ちょっと心配だねっていう切実な声もいただいているところなので、この三崎地区の三崎小学校が検討対象校になっているっていうことに対して、それぞれがどのような御意見を持っているかっていうあたりをしっかりとうかがって次につなげていくことができたらというふうに思っています。

○**出口市長** 三崎小学校の話の前に1つだけうかがいたいんですけど、今学校教育ビジョンの話を見せていただいて、私としてはその実効ある取組の内容がやはり理想の実現のためには、非常に不十分だというふうに考えているんですけども、教育長はそこをどういうふうに考えていますか。

○**及川教育長** やはり学校教育の中では授業をいかに充実させていくかっていうことが大切です。いろんな体験ももちろん必要なんですけども、それは海洋教育などにも出ていたように、三浦らしさを生かしながら進めていくことも必要なんですけども、やはり教育課程を適正に実施していくためには、今言われている主体的・対話的な深い学び、協働的な学びを充実させながら実現していくということを考えたときには一定規模の子どもたちの集団を作りながら、そういう状況を整えながら目指す事業を行っていくというのが学校教育にとっては一番必要なんだろうなって考えています。

○**出口市長** そうするとこの理想を実現するために今の取組の内容で一定程度十分だと。

○**及川教育長** まず保護者などが不安に思っていることも含めて、三崎小学校が検討対象校になっているということも含めて、どのように考えていったらいいかということをも具体的に進めていくと、まずはそこを具体的に進めていくべきだろうと考えています。

○**出口市長** 質問の答えにはなっていないんですけども。

○**及川教育長** いや、そういう保護者の不安に対してどう答えるかっていうのはとても大切な意見交換会を開いているっていうのは、その意見を大切に受けとめるということの責任もありますのでそれはきちんと受けとめながら、意見交換会ですからそこで何か結論を出すというわ

けではなくて、次にその地域協議会っていうことがありますのでそういう中でさらに議論を深めていくということで、親の不安であったり、これから望みたい教育であったりということを実現していければと考えています。

○**出口市長**　そうすると学校教育ビジョンの実効ある取組については、今日はこれ以上の議論は割愛させていただいて、三崎小学校に関するところの話をさせていただければと思うんですけど。委員の皆さんからこの三崎小学校、今後の統廃合検討対象校という点について御意見があればお願いいたします。

○**廣瀬委員**　今お話にあった意見交換会で出された意見を少しお聞かせ願えればと思います。お願いします。

○**浦西教育総務課長**　意見交換会で出ている意見につきましては、まず児童数の推計を見ると保護者の方々から統合を進めざるを得ないというふうな意見はあります。そうした中で先ほど話がありましたけど、令和10年度に三崎小学校において複式学級が見込まれることから、三崎小学校の保護者の方からは令和10年度には統合を進めてもらいたいという意見と、出来れば新しい学校の建築をしていただきたいというような意見もあります。

また、学校側としても教員としては複数学級になるような21人以上の規模の学級が望ましい。複数学級にすることによって、教師同士が学ぶことやできることと、児童や教員にとっても学び合えるいい環境なのではないかというような意見が出ております。

以上です。

○**石渡委員**　1つは市長にもちょっとお聞きしたいんですが、いわゆる文科省で言っているクラスの適正規模としては12から18学級ぐらいまでが最適だろうと言っている。今、データを見させていただいても、現状はすでにそれに当てはまってない。3校を合同した場合には令和13年でもそれに近い数値になっているというふうに思うんですよね。私たちは昭和30年代から義務教育を受けて、その頃三崎小学校は児童数が1,000人を超えていて、三崎小学校の児童数がいっぱいになって岬陽小学校ができて、さらにその岬陽小学校もいっぱいになって名向小学校ができたっていう経過がありますよね。それが時代背景で三崎地区の状況だったというふうに思うんですよね。そういう中では適切な学校規模っていうのができていって、若干多いところもある時期も私の世代はありましたけどね。やはり子どもたちにより良い質の高い教育を提供していくために文科省で考えている部分もそういうところかなというふうに思われるんですが。地域を活性化するためにも今の3つの学校を残していかなきゃいけないっていう理由については、市長はどんなお思いがあられますか。

○**出口市長**　まず先ほど申しましたけど、三崎小学校は非常に生徒数が少なくなってくるので今後統廃合を検討していかなきゃいけないと思っています。文部科学省でも地域の事情ですとか特性に応じてその規模というのは実際検討できるし、していると。そういった事例もたくさん紹介いただいています。そんな中で私がここで説明しましたけど、三浦市っていうことを考えたときにやはりそれぞれの地域特性があり、そしてその地域特性だけじゃなくて少人数の

規模のいい部分というのがたくさん研究でもあるし、今後の教育としても非常に三浦の特性を生かしやすいんじゃないかというふうに考えていますので、私はできる限り残していきたい。ただ、それがやはりできる限りの部分を超えてしまったらそれは統廃合を考えていかなきゃいけない。そういう立場です。

○石渡委員 ありがとうございます。

もう1点。教育現場にいた人間として、私は10年前学校を預かっていたときに剣崎小学校にいて、剣崎小学校も150人ぐらいだったんですけども、私が岬陽小学校に移った次の代の新生が10人というときがあったんですね。それでその保護者さんの中から10人かよってというような言葉があって、申し訳ないけども剣崎小学校に通わせたくない。だから、ある程度人数が確保できる学校に行かせたい。お兄ちゃんは剣崎小学校6年生にいたりという中で、兄弟でねじれ現象が生じる場合があります。それでとうとう最終的には3名でクラスを運営すると、教育委員会の配慮でそのときには加配をいただいて、複式学級を設けなくて授業を行って、3人で卒業していたっていうのをその後も見ましたが、やはりいろんなニーズが親御さんの方もあるだろうと思うので教育委員会も様々なコンセンサスを取りながらやってこられたというふうに思うんですよ。

今の三崎中学校の様子を見ていると、我々がやっていた時代と違って進んできているなと思いますし、国や県でも取り組んでいます、例えば川崎、横浜では1小1中学校っていうのがハード面や教育内容の編成も含めて研究されていたり、取り組もうということで盛んにやっていますけど、そういうことに関しても市長はあんまりいい感じには思っていないくて、そういう学校のあり方っていうのはよくないというふうにお考えなんですか。

○出口市長 学校のあり方としてというのは規模を大きくしてということですか。

○石渡委員 はい。

○出口市長 繰り返しになりますけど、私はできる限り学校は地域に残していくべきだというふうに考えていて、それは先ほど理由を説明しましたが、例えば転入されてくる方にとって小学校がないことは転入障壁になるっていうのもありますし、今求められているその教育というのが必ずしも規模を大きくしなくても実現できるだろうというふうに考えているのもあります。

また、工夫によっていわゆるほかの学校との交流ですとか、そういう機会をつくっていくなっても考えられますから、やはりできる限り残していく。その残っている中で前向きな教育に関する施策を打っていく。それで地域や教育の魅力を高めていく。それをできる限りやって、それでもどんどん人口が少なくなって子どもが少なくなって、学校が維持できなくなるってことが見えればそれは考えなきゃいけないんですけど、まだそういうふうなものが見えてない段階で積極的に統廃合していくというのは、先ほど申し上げたいろいろなネガティブな要因やインパクトが出てきますので、そこを自ら進んでやる必要はないというふうに考えています。

○村山委員　市長のお話をうかがっている中ではデータも含めて20名前後がいいんじゃないかということですので、この三崎地区の推計を見ていきますと、最後の6ページにある3校まとめた場合では令和13年になるとちょうどこれに当てはまるのかなと思うんですけども。市長も先ほどから言われている統廃合ありきではなくて、できる限りっていうことをおっしゃってくださっているんですけども、現実的にもう令和10年には複式学級が見込まれている。市民アンケートでは20名から30名ぐらいのクラスが望ましいっていうことが多くて、それでまたこういったことを提示して今の議論に至っているんじゃないかと思いますので、市長が言われたその複式学級でもいいんじゃないかっていうところのことを保護者の方であるとか地域の方に改めて御理解いただかなきゃいけなくなっていくんじゃないかなと思うんですよ。そのアンケートがあってこの話が進んでいることだと思うのでその方たちの意見を覆すじゃないですけど、そういったことが必要になってくるのかなっていうふうに思いまして、教育のビジョンとして取り残さないっていうのはすごく大事なことで、統廃合した後のその学校がなくなるかどうかってところの学校の使い方なんていうのはまた次の議論になってくるのかもしれないし、これが市長の意見であって、教育長の言われたように予算だとかそういったことの兼ね合いの中で実現できることなのかっていうことがわからないと、説明がきちっとできないと思います。現実的にこの数値を見ると、令和13年の時点でも大規模学校ではないと思うんですよ。どちらかという小規模だと思うので市長が言われている小規模の生徒に向けて先ほど説明いただいたことが実現できるようになってくるのかなと思います。

逆を言うと私は初声地区ですから初声は400人いるわけですね。三崎はそうするけれども、じゃあ初声はどうするんだというふうになってしまう。さっきからおっしゃっているように地域の違いがあるのかもしれませんが、その整合性も踏まえると初声小学校を分けるのかってなってしまう。その辺の話がまだできていないからその議論はちょっと難しいと思うんでここですべきことではないと思うんですけども、そういったことも踏まえて話を進めていったほうがいいのかなというふうに思います。

三浦市独自の教育でそれを魅力として三浦市に来てもらいたいっていう、これはすごくいいことだなんて思います。前からヨットの教育だとか海洋授業だとかそういったこともたくさん取り組んでいますけれども、そういう授業を受けたいから三浦に住みたいなんて人が増えればいいと思います。それはみんなで協力してやっていくべきことだなんて思いますけど、ちょっと引っかかるところがまちを活性化するために教育ってというのがどうなのかなって。子どもに負担になってしまうというか。我々がその準備をして三浦全体がいいまちであるということをつくり上げていくっていう意味だとは思いますが、それに関しても今一度、他府県の事例を踏まえて、市民が納得する形ってというのが提示されないと理想だけでは何とも難しいかなっていうふうに思います。

三崎地区で見ると今、統廃合に向けての話を進めていかなきゃいけない段階なのかなっていうふうに感じます。市民アンケートを踏まえて、そういう御意見が多かったのでもそこに進めてくべきなのかなっていうふうに感じますけども、それはまた改めてここに書いてあるように、保護者と教員と地域の人との協議の上で進めていくべきことだと思いますけども、データだけ見る限りではアンケートに沿った形になっているかなっていうふうに考えられます。

○出口市長　ありがとうございます。

今の御意見について私も当然アンケートを拝見させてもらっていて、アンケートの中で統廃合に関しては複式が見込まれる学校から段階的に統廃合を進めるっていう回答が65%と最も多くてやはりこれは踏まえなきゃいけないんだと思っています。ぜひ御理解いただきたいのが、何が何でも統廃合に反対しているということではなくて、できるだけやっぱり学校を残していきたい。この複式が見込まれる学校から段階的に統廃合を進めるっていうことをアンケート結果を踏まえて議論していくということは必要なことだと思います。しかし、先ほどから申し上げたように三浦のこと、地域のことを考えたときに拙速に例えば3校を1つにするっていうのはやはり違うんじゃないかと私は思っています。

○村山委員 今日市長の御意見をうかがったときに、統廃合した方がいいって言っているわけじゃないんですけど、市長が目指すところの小規模な形の教育にちょうど当てはまるんじゃないかなって話を聞きながら私はそう受けたんですけどそれは違うんですかね。

○出口市長 いわゆる小規模っていうのは先ほど示したとおり20人以下が非常にいい結果が出ているっていうのもありますけど、小規模が私としては教育的に随分メリットがあるだろうと思っているのが1つ。そして学校統廃合することのやはり地域にとっての大きなデメリットなんかもあります。例えば、3校を1つにしなくても、本当に三崎小が少なくなっている中で三崎小の統廃合を考えたときでも、小規模の魅力的な教育っていうのはできると思いますので、それを一足飛びに3校を1つにするっていうのは、総合的に考えて私はあるべき姿じゃないなというふうに考えています。

○村山委員 地域から学校が無くなるっていうことの不安というのは、地域の方が学校に携われなくなってしまうとかそういったところもあるかもしれませんし、先ほどからおっしゃってくださっている学校が無いからそこを選ばないとかっていう可能性もあるかもしれませんけれども、石渡委員がお話ししてくださったように、剣崎小学校の少ないからそこに行きたくないっていう声もあって、その辺をどこまで拾えるかっていうのが議論の余地があるかなと思います。同じ話になってしまいますけど、段階的に統廃合していくでもいいですし、先が見えているのであればどういう準備をすべきかっていうことも大事ですし、市長が先ほどから言われている教育っていう部分だけで言ったら、20人のクラスが2クラスできているっていうのが令和13年の人数になるわけですよ。だからそれは小規模校として、ちょうど市長の理想に合う、今お話しいただいたようなことが実現する形につながっていくのかなとお話を聞きながら感じたところです。

三崎小学校が複式学級になることでそこから漏れてしまって、漏れた人たちがそれで良いっていうところ、そういう教育をしてもらいたいっていうところを市として残していくのか。どうしていくのかっていうことになるのかもしれませんが。ちょうど20名前後ということ踏まえれば今から準備していった方がいいのかなっていう感じはします。

○川名委員 できる限り学校を残しておきたいっていう意向については市長のご意見だと思いますし、まず統廃合が最後の策だというふうにお話しされていましたが、最後の砦で

はなくて統廃合することによって今いる子どもたちの教育の充実であったり、統合することによって中学校に上がる時のギャップがなくなる。

また、複数学級になることによって、教員の数が増えるってなったときに最後の砦ではないと私は認識をしています。できる限り残したいっていう意向は理解できますが、その最後の砦として統廃合するのではないということをお自身は考えています。今いる子どもたちにどのような教育環境を整えることがベストなのかっていう先を見据えて進めていかなきゃいけないことだと思いますので、例えば地域に特性があつて三崎小学校という古い歴史の中で学んでいる子どももいます。名向小学校で小網代の海を見ながら独自の学びをやっている。岬陽小学校では学童という放課後も保護者が安心できる場所がある。その3つの地域の特性がこの先、上手くいくような段階を踏まえて1つになるっていう場合では強みにもなるんじゃないかなって感じています。あくまでも3校が1校になる又は2校が1校になる。そこはまだ前提の段階だと思いますけど、融合することによって教育が相乗効果、要は2倍ではなくて二乗になっていくっていうことも私はその統合には見えてくると感じています。

○石渡委員　今の川名委員の意見に付け加えさせていただきますが、ここで教員側として少し視点を変えまして、一番大切なのは子どもたちへより良い教育を提供するということが私たちが後世に残すことかなというふうに考えます。教員の立場から考えると今は大体1学年1人の教員っていう状況ですよ。私が剣崎小学校に赴任したとき、三浦市で一番の小規模校だと言われていたんですけども、そういう学校でも2年生までは複数学級で、残念ながら3年生から6年生までが単級という中で、今の先生方と同じ小規模校であっても先生方で交流し合える。例えば複数学級であれば、複数の学年の中でこういう教材をこういうふうに扱ったとかっていうようなことを研修し合えたり、率直に話し合ったりして、1年間の授業の中で1学年に複数の先生がいられるってことは有効だったなと思います。ところが今、学校を見ていると先生は一所懸命やっているんですけども、本当にいろんなことで追われてしまって、自分が本来、子どもたちに提供すべく教育の内容についての吟味までにはいってないんじゃないかなと感じます。そういう意味でいろいろ苦しむ先生の話も聞きますし、市長は令和12年、13年ということではおられますけれども、僕は教員という立場から考えると適正配置ということをお文科省でも言っていますけども、それに近づいていかないとやはり三浦の教育は充実したものが提供されないんじゃないかなっていう思いがあります。

○出口市長　最後のところが理解できなくて、教員の数っていうところはもちろん理解できません。複数の教室があれば教員も複数いて、相互に協力し合っているってことは理解できますけども、例えば今は名向小学校も10数人に減っていますけど、それによって教育の質が落ちていくということがよくわからないんです。むしろ今後の教育を考えたときに、1クラス10数人ということがより魅力的な教育を行っていく上でも規模としては十分いいんじゃないかというふうに考えているんです。ですので、最初から御説明させていただいたんですけど、こういった三崎小学校のように本当に複式になってしまつてということであれば、そういうことを見えてきているってことで検討しなきゃいけない。そのように思っていますが必ずしも三崎小、名向小、岬陽小をすべて1つにして、20数人規模のクラスが2つなければ良い教育が難しいっていうことではなくて、むしろもう少し小さいサイズの学校でやれる教育というのは非常に魅力的

な教育ができるんじゃないかと。それが今後の日本の教育のあり方と適合していきんじゃないかというふうに考えております。

○石渡委員 機能として、子どもたちに教育をしていくっていう先生の立場から考えると私は適正ではないっていうふうに思うんですね。もう10年先とかじゃなくて考えていかなければいけない。それはこの教育ビジョン出されたときから、そういう方向付けも考えていこうということで、こういう1つの指針としてのあり方を言われているんだと僕は思っていましたけども。今後どうしたらより良い教育が提供できるかっていうことを現場も含めて市長にも御理解いただきたいなというふうに思います。

○出口市長 なぜ適正でないと考えられるんですか。

○石渡委員 私は先生の立場でということでお話をします。小学校の場合、1学年に1人の教師っていうのはいろんな中で追われながら厳しい状況です。私が若い時代の学校っていうのは、複数学級があって先生同士がその学年の中でいろんな教材のやりとりをしたり、次の授業をこうしよう、こういう授業をしようっていうのができたのかなっていうふうに思います。今の先生方を見ていると、1人で全部抱え込みながら年間行事だとか教材研究をしたりとかっていう中ではやはり厳しいんじゃないかなというふうに思うんですね。市長はいろんなことで乗り越えられるよって言われるのかもしれないけども、先生の立場として現場にいた人間としてそういう思いはあります。

○出口市長 そうするとおっしゃっているのは先生の教える環境という話ですよね。そこはいろいろな施策とか仕組みで改善していくべきだと思っていて、そう思うのは今後の教育を考えたときに小規模っていうのは非常に魅力をつくっていくことができるからということになります。

○石渡委員 その辺りの現場を見させていただいて、教育委員として学校を視察させていただいたりする中で、三浦の先生方は子どもたちに地域の教育を含めて一所懸命やっていることは伝えておきたいと思います。

○川名委員 石渡委員が現役のときは複数の担任がいる環境だったというお話をいただいて、私は単学級の子どもの保護者でいます。どこの小学校の先生たちも生き生きしていると思います。教育の充実について、どこを比べるのかということになると、前と比べるのか後と比べるのではなくて、今いる教職員の方々は教育に対して子どもたちと向き合っていると思います。特に感じるのは小学校以上に中学校の先生方は複数の学級が多いので、やはりそこも学校訪問していると感じる場所があります。学校の中の雰囲気と風通しの良さってのが比べるものではないんですけども、複数学級の担任がいることがいいのかなというふうなことは肌感で感じています。ただ教育の質が悪いとかではないっていうことは、市長にも御理解いただきたいと思います。

現状として御意見ありました3校を1校にするのか、2校を1校にするのかということはある

くまでも人数合わせの状況になっていますので、本当に今いる子どもたちの教育がどこに進むべきなのかというのは保護者含めて教職員や地域の方々と市長の御意見、教育委員会の御意見を交えながら進めていく。やはり2校を1校にするだけでも地域の方々の相当な御意見があると思います。統廃合っていうことをしっかり前を見据えて考えているっていうことを発信しながら議論していくべきだなっていうふうに思います。

○**出口市長** そのときに前を見据えるだけじゃなくて、どういう教育を今後行っていくのかっていうビジョンのところに戻ってくるんだと思っています。そこに返ってくるとやはり僕は現行の教育ビジョンっていうのが足りてないというふうに理解しているのでそこから議論すべきなんじゃないかと。前回の学校の先生に聞いたアンケートですけど、教員の授業力を上げるために重視することの中で特に小学校の先生は公務負担を軽減した授業準備をする時間や教材研究の時間の確保とか子どもと向き合う時間、生きがい・やりがいを持って仕事に取り組める環境。このあたりはかなり上位に来ているんですよ。これはそれぞれ3つの今申し上げたことに共通するっていうのはやはり時間が十分でない。例えば仕事に追われていたら生きがい・やりがいを持って仕事に取り組める環境も十分に確保できなくなってくるっていうことだと思うので3校共通していると思うんです。ですので、教育委員会の皆さんと市と考えなきゃいけないのは教員の授業力を上げる若しくは教員の皆さんのやりがいを確保するという意味で、どうやってその負担を軽減していくかっていうことを考える。そのあり方っていうのは必ずしも全部のクラスを複数にするってことだけが答えじゃないと僕は思っているんで、いろんな方策があるということをご議論させていただく必要があるかなというふうに考えています。

○**廣瀬委員** 市長も段階的な統合は免れないかもしれないということで、先ほど説明のあった三崎地区の意見交換会でもやはり10年度にはもう進めてもらいたいという意見があったというようにもお伺いしまして、やはり段階的には統合は免れない事実なのかなっていうふうには捉えてはいます。

私も乳幼児の世界ですけれども、石渡委員も言ったように職員がいる中で過ごしていると、先ほど専門職の少し経験のある職員が指導して回ってもいいんじゃないかって話もありましたけれども、やはり管理職のような職員が指導すればいいっていうところだけでもないと思うんですね。ある程度年齢が近かったり、思いを一緒にできるような職員といろんなことを考えていける。そういう環境も大事なのかなというふうに思います。そういうことが職員の環境も良くするのかなっていうふうにも思っていますので、ある程度の職員の数も確保できたような学校っていうことが必要かなっていうふうには感じます。

あと、先ほど20人というお話がありました。20人という保育園も全然超えていますけれども、大勢の中の1人、埋もれないというふうにおっしゃっていましたがけれども、私も職員も学校の先生たちも多分同じ思いなんじゃないかなと思うんですけれども、決して大勢の中の1人って思っていないんですね。一人ひとりがいる上での大勢になっているっていうふうに思っています。一人ひとり向き合うってことは確実に私たちもそこは肝に銘じて毎日過ごしていますので、そこはちょっと取り違えないで欲しいなっていうふうに思って聞いていました。

○**出口市長** 一人ひとりの子どもたちっていかに向き合えるかっていうその時間を確保したりとかっていうことは非常に重要なかなと思いますので、そういうことをいかにバックアップでき

るかっていうことをよく考えていかなきゃいけないと思います。

そのほか御意見ありますでしょうか。

(意見等なし)

○**出口市長** 今日には学校教育ビジョンと三崎地区の小学校再編について議論させていただきました。今日は私の意見を皆さん聞いていただきましてありがとうございます。今後、市長部局でもしっかり検討して、どういう形で落とし込めるかっていうのを進めていきたいと思えます。皆さんに私の意見についてもぜひ受け止めていただければと考えています。

今後、来年については三崎小学校の統廃合について、様々な議論が進んでいくと思えますので、保護者の皆様とか地域の皆様の声にしっかり耳を傾けて進めていければと思えます。何卒よろしくお願いいたします。

そのほか御意見ありますでしょうか。

(意見等なし)

○**出口市長** なければ今日の総合教育会議を終わりにさせていただきます。大変有意義な意見交換ありがとうございました。

○**鈴木教育部長** 本日予定していた内容はすべて終了いたしました。以上を持ちまして、本日の総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。

◇ 午後4時01分 閉会 ◇
